

大原草紙

第82号
令和5年1月
新春号



本田さんの心に残る「大原のベストポジション」を編集部が伺いました。生年月日を聞くと昭和19年1月1日生れ、本誌が出る正月には満80歳です。

▼いま人生を振り返り思い出深い大原の場所というとどこですか

小学生のころ中央橋の堰堤付近で水遊びをしたこと、それと祭の二ギワイが思い出深い。江文祭に馬場（参道）や翌日の大長瀬祭りに沢山の露店が出て、毎年出店するオッサンで呼び込みが独特的の節回しの人もいて普段大原の店には売っていない、トッピンや風船に水を入れたヨーヨウを手のひらでポンポン音をさせて遊ぶ。竹笛を吹くとピーと音をたて蛇になるオモチャなど、屋台にはワクワクするものが置いてあった。

▼馬場は賑やか。同じ人が毎年ケンカしていたようだつた。そう競馬。兵隊に行つて乗馬をおぼえた人の晴れ姿。酔っぱらってケンカは終戦後、ド

本田さん的心に残る「大原のベストポジション」を編集部が伺いました。生年月日を聞くと昭和19年1月1日生れ、本誌が出る正月には満80歳です。

▼いま人生を振り返り思い出深い大原の場所というとどこですか

小学生のころ中央橋の堰堤付近で水遊びをしたこと、それと祭の二ギワイが思い出深い。江文祭に馬場（参道）や翌日の大長瀬祭りに沢山の露店が出て、毎年出店するオッサンで呼び込みが独特的の節回しの人もいて普段大原の店には売っていない、トッピンや風船に水を入れたヨーヨウを手のひらでポンポン音をさせて遊ぶ。竹笛を吹くとピーと音をたて蛇になるオモチャなど、屋台にはワクワクするものが置いてあった。

▼馬場は賑やか。同じ人が毎年ケンカしていたようだつた。そう競馬。兵隊に行つて乗馬をおぼえた人の晴れ姿。酔っぱらってケンカは終戦後、ド

江文神社参道・馬場のにぎわい



▼私は草生町で囃子方の力13歳から26歳まで神輿を担つた。酒3〜4合位でそれはなかなかない、見せ場やつたのかなあー

▼私は草生町で囃子方の力13歳から26歳まで神輿を担つた。酒3〜4合位でそれはなかなかない、見せ場やつたのかなあー

▼コロナ禍で3年神輿の出番がないが、今年あたりはコロナに静まつてももらいたいね「そう、そうして神輿と沢山の人で馬場が賑わい、お稚兒さんの姿が見たいね」

ンドコの貧しさ、祭しか酒が飲めない、底が抜けるほど酒を飲むそんな時代の祭りを小學生の我々は見ていたのかナアー」

▼祭りに出たのはいつから上野町で育ったから13歳で座（座敷）には入つて神輿を担ぐ、酒も飲む。御神酒や飲めつて……」

▼馬場まで戻つて来た神輿がなかなか仮屋に収まらない、みんな力持ちやつたね

そう井出町が一の宮、上野と野村が二の宮、戸寺と大長瀬が三の宮で一の宮はスツと収まるが、二社はなかなか収まらない、見せ場やつたのかなあー

▼私は草生町で囃子方の力13歳から26歳まで神輿を担つた。酒3〜4合位でそれはなかなかない、見せ場やつたのかなあー

▼コロナ禍で3年神輿の出番がないが、今年あたりはコロナに静まつてももらいたいね「そう、そうして神輿と沢山の人で馬場が賑わい、お稚兒さんの姿が見たいね」

謹賀新年

京都大原里づくり協会



顧問	土井 孝雄
顧問	和田野光彦
顧問	榎並 博一
副理事長	上田 壽一
理事長	西田 誠
常務理事	高倉 哲法
理事	是恒千鶴子
理事	佐々木春美
監事	渡辺 民
監事	西山安佳里
監事	竹腰 幸司
監事	山本 克也
監事	安倍百合子
監事	東 恒男
監事	池田 定男
監事	高田潤一郎
監事	安倍百合子
監事	前田 明美
編集委員	高田潤一郎
編集委員	池田 定男
編集委員	高田潤一郎
編集委員	前田 明美
編集委員	高田潤一郎
編集委員	池田 定男
編集委員	高田潤一郎
編集委員	前田 明美

新年のご挨拶

理事長 西田誠



大原十名山を 登りませんか

登りませんか



2023年の念頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年の年頭は当、里づくり協会の存続か解散かを議論する時期でした。そうして1年、元気よく再出発の道を進んでいると言い難い所にあります。ですが、明日あることを信じ20年にわたる本会の洗濯をして、新鮮な活動目標を創り上げ次の世代にバトンタッチする大切な1年と考えています。皆さまのご支援と御協力をお願い致します。

里づくり協会設置の案内板

所在確認を実施

当、里づくり協会の結成から20年を経過しました。その間の各種取組の一つに各町の史跡や10名木、10名山など随所に案内板等を設置してきました。

長年の風雪で、約50枚の案内板等には字が読めない、木製の杭が腐り自立できない、行方不明の案内板もあります。先ずは写真付きの設置台帳をつくりました。保守管理や新設の是非を検討します。管理や新設の是非を検討します。

お願いです



藤袴（ふじばかま） 植えませんか

フジバカマの苗
限定8株差上げます

オオムラサキやアサギ
マダラ蝶の舞う
大原にしましょう

希望者は和田春美さんまで
☎ 090-1181-4425 (和田)



皆さまに活動基金
をお願い致します。
募金は当協会の役員へ
ご連絡下さい。

ぐるり!大原の山 大原の里10名山 登山マップ

大原の里10名山		
山名	地図	概要
① 水舟山	上野(伊香坂) 芦寺(鬼谷坂)	三義郡の美しい渓谷、とめ山周辺コース
② 大原山	天野原(奥原の森) 上野(伊香坂)	山頂付近は岩場で岩場を楽しむ
③ 那智原山	井出 (おひで)	那智原山付近は岩場で岩場を楽しむ
④ 金光明山	井出(江神社) 草生	大原の里の山の中でも最も高い山で、見晴らしがいい
⑤ 畦屋山	草生 (くさぶ)	平野地帯に位置する山、見晴らしがいい
⑥ 烧山	草生 (くさぶ)	大原三山(金光明山、那智原山、燒山)の中でも高い山
⑦ 仁井田山	草生 (くさぶ)	大原三山(金光明山、那智原山、燒山)の中でも高い山



大原住民の高齢化を考える

編集部 西田 誠

むかしむかし今から70数年前私は小學生でした。音楽の時間文部省唱歌を大きな声で唄いました。

♪むらの渡しの舟頭さんは

今年60のおじいさん

年はとつても お船を漕ぐときは

元気イツパイ ろがしなる

それギツチラ ギツチラ

ギツチラコ——

それが今や80歳越えです

♪むらのわたしは イチビリさんで

今年80過ぎのお爺さん

年はとつてもオシャベリする時は

ダジャレイツパイ 皆シラケ

それ!! ドッシラ ドッシラ

ドッシラケ——

高齢者の日々の課題

突然振りかかる転倒や循環器系の自分自身が発する出来事。外からの経験したことがないほどの大規模自然災害や特殊詐欺等々。そうして十人十色のイロイロなこと。いよいよ人生の第4コーナー「人は一人では生きられない」「独立すれど孤立せず」このページを「高齢者の情報交換の場」にしたいと思います皆さんと高齢者のテーマを語り合いたいと思います。投稿をお願いします。

十年ひとむかし

井出町 池田定男



「老人」と言わず、「高齢者」などと言うのは聞こえはいいが、官僚用語のようで、なにかガーゼに包まれたような、得体の知れない氣色わるさが感じられる。よって以下、「高齢者」と敢えて言わず、「老人」という用語を正しく理解したうえで使正在しております。

いまの今まで「老人」など、他人事、人ごとのように思つてきたし振る舞つてきた。年齢から云えば72歳で、行政の方からは植物園・動物園の無料入園、市バスの割引制度など、僅かばかりの恩恵に授かっている。こう言つたときは「高齢者」という言葉を理解し、意識もする。しかし、これらサービスも今後あまり期待出来ない。若いひとが可哀そうである。話変わって、いつからか「老人」に対する状況が変わってきた。昨年2021年度内閣府の調査によると、日本国民約1億2000万人の3割近くが65歳以上の老人であり、その数は3600万人近くになるとある。3・5人に1人が老人なのである。加えて、少子化の進行による若年人口の減少がある。これらの状況が要因となり、下記のようないろ

大原の道標 その二

大原古文書研究会 上田 壽一



京都市

内貴清兵衛

明治四十二年九月

大原御幸

古蹟 寂光院

寂光院前にある二メートル近い自然石に刻んである。

内貴清兵衛は京都市初代民選市長である内貴甚三郎の長男。生家は京染呉服問屋。彼は土地の将来性に着目し、洛北、洛南に広大な土地を所有した実業家である。島津製作所、日本電池など京都の成長企業の役員を務めた。

いろいろ問題が起こっている。例えば、①医療・福祉の問題、②社会保障制度の問題、③現役世代の減少及び人口減少とともに経済成長率の低迷等。またこれらの状況を見てくると、老人がなにを必要としているのか、が分かる。①買い物、通院などの移動支援が4割を占める。②在宅生活を支える各種介護サービスなどの充実とあり、大原においても十分に理解できる事柄である。さらに困り事として、①気軽に外出するのが難しい、②孤独を感じている、という事例が続く。

これほどに老人問題が巷に蔓延している現在の状況においても、尚未ひとつ自分自身の問題として、実感として捉えきれない。つまり冒頭で記したように、他人事、人ごとのように感じてしまう。受け入れられない。体力的にも精神的にも、それなりの老化現象は意識するものの「まだまだ出来る」「まだまだ行ける」「若い者には負けられない」といった、老人特有の頑固な自己中心主義に陥るのである。度が過ぎてクラクラする時もあるが：人生100年と言われる今、年齢を重ねることを楽しむ。そのためには自分の好きなことをやる。自分らしく生きる、やりたい事を今やついく。それら毎日の積み重ねで、始めて「十年ひとむかし」を振り返ることができる、のだと思つてゐる。

第2回 大原子育て世代 移住者交流会



日時 .. 11月20日（日）9時～14時
場所 .. 龍池小学校 大原学舎

大原自治連合会会长 田家正雄

移住者子育て世代交流会は龍池教育団大原学舎を会場に開催することが出来ました。前日とは違い早朝から雨模様でしたが、参加者が集う頃にはだんだん曇り空に代わり何とか子供たちが楽しみにしていた芋堀も無事終了し龍池学舎に植わっているキウイフルーツも収穫することが出来ました。

昨年は、健幸の郷を会場に各町内会長にも参加いただき話し合いをしましたが、マスク越しの触れ合いでは中々顔もわかりづらく：と云うことで、昨年とは違いおにぎりとけんちん汁を味わいながら交流をしていただきました。今はコロナ禍、最近は感染者も増えてきていますので、極力屋外での活動をすべく、ご飯も竈で焼き田舎の良さを取りいれるべく考えた会でした。

このような集いを通して、互いを知り合いい地元大原に溶け込み地域の活性化のためそれぞれの立場で貢献いいだければと願うばかりです。最後に屋外の活動という事もあり参加者の中には午後の日程が入っている方々もありましたので閉めの挨拶も出来ないまま流れ解散になつたことをお詫びいたします。



2022/11/20



芋ほりは双葉造園さん



交流会始まる



2022/11/20 11:53



グランドのあちこちに



準備中



おにぎりとけんちん汁



談笑

移住者の声

草生町 山本陽平



年代別	平成26年	令和元年	令和4年	大原草紙編集部のコメント
15歳未満	138	137	148	26年から減少傾向が元年から上昇に転じる
15~64歳	1012	765	698	中核的世代の減少傾向が止らない
65歳以上	783	841	835	高齢者の人口は微増傾向
合計	933	1743	1681	減少傾向は止まっている
大原学院生徒合計	79	71	89	15歳未満人口と同様、移住者増加が貢献

大原に移り住んでから9回目の冬がやってきました。初霜、初氷、初雪。いずれにしても市街地にある気象台が観測する前に、大原に訪れる現象です。そうです。ここは寒いんです。街から里に越して、冬の暮らしが大きく変わりました。雪かきや雪下ろしは移住して初めてやりました。水道管は凍結で2回割れました。

長女が春に入園した地元の小規模保育事業所「小野山わらんべ」のモットーは里山の環境を生かして、五感に響く保育。京都新聞で連載をしている関係で初夏に取材に伺いました。子どもたちはササを釣り竿に見立ててごっこ遊びをしたり、シロツメクサの花飾りを作つておめかしたり、イタドリをかじつたり。まさに五感で自然を楽しんでいました。生き生きとした表情を見ていると、「大原に来てホンマに良かったなあ」と感慨深いものがありました。教育面では、小学6年の長男が通う京都大原学院で児童が自分たちで野菜や

自然は厳しい。けれどもその自然こそが、大原の魅力であると実感しています。育児環境で子どもたちが自然と触れ合う場面が多く、私自身がうらやましいほどです。

大原に移り住んでから9回目の冬がやってきました。初霜、初氷、初雪。いずれにしても市街地にある気象台が観測する前に、大原に訪れる現象です。そうです。ここは寒いんです。街から里に越して、冬の暮らしが大きく変わりました。雪かきや雪下ろしは移住して初めてやりました。水道管は凍結で2回割れました。

草生町 山本陽平



米を育てる機会があります。また、学校や各種団体が連携した国蝶オムラサキの保護活動は、この地ならではの取り組みではないでしょうか。国の準絶滅危惧種であるオムラサキ。たまたま児童が通学中に羽のかけらを拾つたことが活動の原点とのことです。中学生の授業では冬の越冬幼虫探しが恒例行事になっています。夏に羽化したら、放蝶会が開かれます。子どもたちはチョウの生態を学び、自分の手で国蝶を放てるのです。

自然の中で重ねるさまざまな体験。豊かさってこういうことではないのだろうかと思います。

大原への転居に関して一番の心配事は人づきあいでしたが、子どもを通じて大原学院を中心とする教育ステーションにアクセスできることで、少しずつ不安は安心と魅力へと変わっていきました。今年から小学校へ通い出し、手厚い教育に感謝する反面、「もう少し地域の子どもが増えたらな」と思ふこともあります。ひとつ残念だったのは、ともに過ごしてきたお友だちが就学期を前に住処が見つからず、他県へ引っ越してしまつたことでした。自治会や里づくり協会の活動を通して、新しく越したどり着くか」そんな冒険心から、たくまに進んでいく。「どんな所にたどり着くか」そんな冒険心から、大原への視界いっぱいに広がる里山の風景。絶景とは違う、なぜかした。獣よけの柵扉を通つて進んだ先に、視界いっぱいに広がる里山の風景。絶景とは違う、なぜか

戻つたら、車で15分程度と意外に近いことに気が付きました。そして大原に住むことを考え始めました。当時は休日になると京北や美山の方までよく出かけていましたが、大原に住むようになつてからは、家でゆっくり過ごす時間が多くなりました。自然豊かな里山での生活に癒され満たされていることを実感しています。

戻つたら、車で15分程度と意外に近いことに気が付きました。当時は休日になると京北や美山の方までよく出かけていましたが、大原に住むようになつてからは、家でゆっくり過ごす時間が多くなりました。自然豊かな里山での生活に癒され満たされていることを実感しています。

戻つたら、車で15分程度と意外に近いことに気が付きました。当時は休日になると京北や美山の方までよく出かけていましたが、大原に住むようになつてからは、家でゆっくり過ごす時間が多くなりました。自然豊かな里山での生活に癒され満たされていることを実感しています。

戻つたら、車で15分程度と意外に近いことに気が付きました。当時は休日と

大原への転居に関して一番の心配事は人づきあいでしたが、子どもを通じて大原学院を中心とする教育ステーションにアクセスできることで、少しずつ不安は安心と魅力へと変わっていきました。今年から小学校へ通い出し、手厚い教育に感謝する反面、「もう少し地域の子どもが増えたらな」と思ふこともあります。ひとつ残念だったのは、ともに過ごしてきたお友だちが就学期を前に住処が見つからず、他県へ引っ越してしまつたことでした。自治会や里づくり協会の活動を通して、新しく越したどり着くか」そんな冒険心から、たくまに進んでいく。「どんな所にたどり着くか」そんな冒険心から、大原への視界いっぱいに広がる里山の風景。絶景とは違う、なぜかした。獣よけの柵扉を通つて進んだ先に、視界いっぱいに広がる里山の風景。絶景とは違う、なぜか

◆ 移住者の投稿をお待ちしています ◆

大原の土地に新たな人たちが一日も早くなじみ、充実した日々を送って頂くよう、紙上に通じて交流し、大原への思いをお寄せください。

連絡先：西田誠
090-4949-0633
2916nishida@gmail.com

大原自治連の世代別調査
(令和4年7月自治連
だより特集号から)
を切り取つて見る

いま 京都大原学院で

京都大原学院の部活動

今回は、各部のキャプテンに作文してもらいました。



■ バドミントン部 ■

彼らは仲良く、楽しく練習しています。上下関係を気にせず、アドバイスができます。

彼らはお互いを高め合うことで、「それぞれが」よりも「全員で」強くなっていると思います。せっかく仲の良い六人でひとつのチームなので団結力を大切にしたいです。秋季大会では、個人戦で四人の部員が全市大会に出場することができました。団体戦は、一位通過で決勝トーナメントへ進むことができました。

■ ソフトテニス部 ■

現時点では、ブロック予選で見つけた自分の課題を克服するために、一生懸命練習に取り組んでいます。

彼らはお互いが部活動をできるのはあと一年もありません。だから、一回一回の練習を大切にして少しでも上を目指したいです。あまりやる気が出ない日もあります。そんな時でも仲間がいるからお互い頑張れると思います。だからこれからも彼らは団結力を大切にしたいです。



8年生4名、7年生1名と、部員数は少ないですが、どこのチームにも負けない大きな声を出して活気をつけ、丁寧に技術力を上げられるよう日々練習に取り組んでいます。私たちがテニスコートを整備するのはもちろんですが、地域の方も毎朝コートをきれいにしてくださっています。そのおかげでたくさんのチームと練習試合を行うことができます。

チームの抱負として部活動に前向きに取り組みソフトテニスを楽しみたいと考えています。そのため、チームの全員が今自分は何をするべきのかを考え、行動できることが大切だと思います。また、チームの大切だと思います。

悪い癖を指摘し合えるような仲間になりたいです。大会の目標は、府下大会出場を目標としています。そのために、たくさんの人からいただいたアドバイスを糧に、部活動を楽しんでいきたいと思います。



合同部活動の様子です。8年生が5・6年生に丁寧に教えています。



■ 文化部 ■

文化部は、9年生の二人が引退し、今は、部員募集中です。一学期は、月、火、水、金の週4日活動しています。活動内容は、音楽に関することとして、ギター演奏、美術に関することとして絵画作品などの制作、家庭科に関することとして、お菓子作りなどに取り組みました。文化部では、このように多岐にわたる充実した部活動を行います。部員募集中！



文化		ソフトテニス		バドミントン			
女子	男子	女子	男子	女子	男子	学年	
-	-	-	1	3	-	7	
-	-	1	3	3	-	8	
-	-	4	6	7	-		※5・6

【部員数】 ※5・6年生は「合同部活動」として週1回活動



れんさいマンガ
★ 81 ★
アズマツネオ



表紙の横顔

《編集部から》

本田元一さんのプロフィール
高校卒業後、錦の大手鮮魚店に就職、空手の有段者で両手・両足で身を守りつつ、大原自主防災会の会長として地域の安全に努められた。ネットでフグ・ハモなどを販売と近年まで商売でも活躍。運転免許を返納して行動範囲が狭まつたと嘆かれる昨今。

私たちの身近な場所で「大原の里づくり」をされている方々の活動を感謝し、ご紹介する「京都大原里づくり協会賞」令和4年度は井出町の高倉有里さん。

京都市環境局の呼びかけで始まった「台所の生ごみを有機肥料に作りかえ再利用する」事業は、京都市の財政事情悪化によって、見直し対象事業となり今年4月で終了しまし

第5回 京都大原里づくり協会賞 大原リユース交換会 の高倉有里さん



「あなたの家に眠っている不用品をお持ち寄り下さい。あなたの不用品を誰かの役に立てませんか。」3年前から始まつた大原リユース交換会の呼びかけです。大原公民館を会場にして毎年2日間の日程で開かれます。すぐ着られなくなる子供服や、贈答用の陶磁器などの不用品の交換会で興味のわく魅力的な企画です。



12月12日（月）13日（火） 大原公民館にて大原リユース交換会を開催しました。モノつていつの間にか増えてしまいますよね。使わないけど捨てるにはもったいないとお家の中で眠ってる衣類や食器、育児用品などの不用品（リユース資源）を必要な方に持ち帰つて頂くエコな取り組みです。今年も子育て世帯から高齢者までたくさんの方々がご参加くださいました。これからも地域ゴミの減量にご協力の程、よろしくお願ひいたします。

大原地域ゴミ減量推進会議
(NPO大原里づくり協会)

■ 投稿者
前田明美



京都府内の
学校所在資料展2

大原も展示されています

京都文化博物館において、12月10日から1月29日まで学校所在資料展が行われています。京都大原学院に保管されている資料や故小松均画伯の絵、それに昭和20年頃の生徒作品「大原の歴史」等が展示されています。是非この機会にご覧ください。

場所 京都文化博物館
時間 午前10時～午後6時
(入場は午後5時30分まで)
休館 月曜日
12月28日～1月3日
☎ 075-222-0888